会計学原理Ⅱ

科目ナンバリング　ACC-104
選択必修　　2単位

徳山　英邦

1. 授業の概要（ねらい）

会計学原理では、会計の目的、財務諸表（会計データ）の見方と会計システムを学修します。講義方法は、当日の学修テーマを概説し、演習問題で具体的課題箇所を実感してもらった上で、再度その学修意義を解説する手順で行います。会計の土台は複式簿記です。会計学原理Ⅰと同様に、簿記の理解に根差した理解のために、適宜、簿記の記帳実践と関連づいた授業になります。

2. 授業の到達目標

財務諸表の理解を深めることを目標とします。主に、（1）財務諸表（貸借対照表、損益計算書）の必要性と特徴、（2）財務諸表の構成要素の理解、（3）財務諸表の相互関連と計算原理の把握、（4）制度的基盤（基準や法規）を把握することを目標とします。

3. 成績評価の方法および基準

授業中に行う小テストや課題の提出状況・受講態度（35%）と定期試験の成績（65%）を目安に総合的に判断します。

4. 教科書・参考文献

教科書
新田忠誓、他著　『会計学・簿記入門』（第15版）　白桃書房
参考文献
近田典行、他著　『基本から学ぶ会計学』　中央経済社

5. 準備学修の内容

授業中に配布するプリントを自分で解き、各回の学修事項をイメージ化し、作図化してください。初めて出会った専門用語の定義を書いてみてください。また、教科書と関連づけて反復して理解するように努めてください。会計学の習得には、自ら実践的に学ぶことが必要です。

6. その他履修上の注意事項

計算機、3色ペン、各回に配布済みのプリントを毎回持参して下さい。理解度確認を目的とした小テスト（約30分）を1、2回程度実施します。

7. 授業内容

【第1回】　ガイダンス（授業の進め方、成績評価、履修上の留意点）、会計学原理Ⅰの復習
【第2回】　会計学原理Ⅰの要点（投資、消費及び浪費、出資、融資及び収益獲得活動、ストックとフロー）
【第3回】　設備投資―取得原価主義と減価償却：原価配分（費用配分の原則）：資産と費用の関係
【第4回】　商品売買の会計処理①―売上高の認識と測定（実現主義と収支主義）
【第5回】　商品売買の会計処理②―仕入高、売上原価の計算：売上高と対応費用（費用収益対応の原則）
【第6回】　商品売買の会計処理③―たな卸資産の期末評価：資産と費用の関係
【第7回】　取得原価主義と発生主義会計（実現主義、発生主義、費用収益対応の原則、費用配分の原則）
【第8回】　事業活動の見通しと損益分岐点分析、ビジネスゲーム演習①
【第9回】　事業活動の見通しと損益分岐点分析、ビジネスゲーム演習②
【第10回】　財務諸表の分析：損益計算書分析（収益性分析）と表示様式
【第11回】　財務諸表の分析：貸借対照表分析（安全性分析）と表示様式
【第12回】　財務諸表の分析：損益計算書と貸借対照表の2つを用いる分析（安全性分析）
【第13回】　損益計算書の作成と表示様式
【第14回】　貸借対照表の作成と表示様式
【第15回】　学修内容の要約